

福島第一原子力発電所 土壤中の Pu 分析結果

1. 測定結果

(単位：Bq/kg・乾土)

採取場所 ()は1,2号機スタックからの距離	採取日 分析機関	Pu-238	Pu-239+Pu-240
グラウンド(西北西約 500m)	2月20日	$(1.6 \pm 0.14) \times 10^{-1}$	$(4.7 \pm 0.70) \times 10^{-2}$
野鳥の森(西約 500m)	日本分析	N.D. [$<1.3 \times 10^{-2}$]	$(3.5 \pm 0.65) \times 10^{-2}$
産廃処分場近傍(南南西約 500m)	センター	$(4.6 \pm 0.74) \times 10^{-2}$	$(2.6 \pm 0.55) \times 10^{-2}$
国内の土壤		N.D. $\sim 1.5 \times 10^{-1}$	N.D. ~ 4.5

[]内は検出限界値を示す

: 文部科学省「環境放射線データベース」昭和 53 年～平成 20 年

: 「グラウンド」「産廃処分場近傍」は、過去のサンプリングが重ならないよう隣接地を採取。「野鳥の森」は同じポイントを深さ方向に採取(採取不可となった時点でポイント変更)

2. 評価

2月20日に検出された Pu-238 と Pu-239+Pu-240 の濃度は、過去の大気圏内核実験において国内で観測されたフォールアウトと同様なレベルである。しかし、これまでの結果から、今回の事故に由来する可能性が考えられる。

なお、平成 23 年 3 月 21 日以降にサンプリングした試料から Pu-238 および Pu-239+Pu-240 が検出されている箇所があるが、値に大きな変化は見られていない。

以上

福島第一原子力発電所 土壤中の Sr 分析結果

1. 測定結果

(単位：Bq/kg・乾土)

採取場所 ()は1,2号機スタックからの距離	採取日 分析機関	Sr-89	Sr-90
グラウンド(西北西約 500m)	2月13日	$(2.6 \pm 0.46) \times 10^1$	$(2.2 \pm 0.04) \times 10^2$
野鳥の森(西約 500m)	日本分析	N.D.	$(5.7 \pm 0.71) \times 10^0$
産廃処分場近傍(南南西約 500m)	センター	$(1.3 \pm 0.11) \times 10^2$	$(9.1 \pm 0.08) \times 10^2$
過去の測定値の範囲		-	ND ~ 4.3

:平成21年度 原子力発電所周辺環境放射能測定結果報告書より(平成11年度~20年度)

:「グラウンド」「産廃処分場近傍」は、過去のサンプリングが重ならないよう隣接地を採取。「野鳥の森」は同じポイントを深さ方向に採取(採取不可となった時点でポイント変更)

2. 評価

検出された Sr-90 の濃度は、過去の大気圏内核実験において国内で観測されたフォールアウトと比べ高い値となっていることから、今回の事故に由来することが考えられる。

以上